

## 4. 総括研究報告書

### 課題 4

# 腎移植患者の足・下肢病の状態、 重症化状態への進行状態の実態比較

我が国の糖尿病の罹患率が増加を続け 2008 年の厚生労働省による日本の推定糖尿病患者数は 1,870 万人とされ透析導入者の 44.2%を占めるまでになった。透析療法は動脈硬化を助長させることから、血管病変は透析療法によって増悪するが、腎移植を受けると透析療法より血管病変の進行は遅くなり、その結果透析療法より患者の生命予後を改善するとの欧米のデータがある。しかし、本邦では未だ透析と腎移植を比較したデータはなく、腎移植の有用性を検討した研究もない。

#### 【研究】

糖尿病性末期腎不全患者において、足病とその治療介入の程度を生体腎移植症例と透析症例の 2 群間にて多施設共同・後ろ向き観察研究にて比較検討し、足病重症化予防としての腎移植の有用性を検討する。

これにより、糖尿病性末期腎不全患者において、重症化の一疾患である足病に対する予防策として、透析治療に対する腎移植の有用性が実証されれば、糖尿病、あるいは腎不全全般に対する重症化予防としての腎移植の有用性を証明することに繋がる。その結果、医療経済的にも、国民の QOL の面においても極めてその意義は大きい。